

中国北京での生活

私は、中国北京で過ごした4か月間様々なところに行った。北京では、多くの世界遺産や文化施設がある。例えば、頤和園、円明園、天安門広場、故宮博物院、天壇、北京動物園など他にも書ききれないくらいたくさんある。留学メンバーと観光やご飯、買い物に行く機会もあったが、私は一人でのお出掛けに挑戦してみようと思い、博物館や中国独自の建築物を見に行った。行く先々で、困ったことや思わぬハプニングにあたりもしたが、どれも忘れることが出来ない体験だった。

一番困ったことは、言葉の壁。やはり、言葉が通じないことも多くスマホを使い画像を見せたりジェスチャーしたりと必死になって自分がしたいことを相手に伝えた。

次に、自分の方向音痴で毎回迷子になること。何回か失敗してから、駅を出たら人に道を聞くことを徹底した。自分の中国語理解の向上とともに、バスや電車の停車場所を聞き取れるようになった。一人でのお出掛けで、初めて人に話しかけると、中国人は冷たい人が多いだろうと何となく思っていたがそんなことはなかった。知らない人に、道や行きたいところを聞くとみんな親切に答えてくれた。また、たまたま道を尋ねた人が日本に留学していたことがあって、日本語で話返してくれた時は驚いた。

私の移動手段は、バスや電車、タクシーが多かったのですが、日本との違いがありすぎてなれることが大変だった。信号無視は当たり前で、バスやタクシーの運転は荒く、車内にはひまわりの殻が落ちているし、バスの椅子は傾くし、驚きの連続です。一番驚いたことは、バス停の場所です。全てのバス停が同じとは言えませんが、日本で言うバイパスの車線と車線の真ん中にあることです。両側三車線の真ん中に、どうやって行けというのかと私は泣きそうになりました。無事渡れたのですが、わざわざ何でこんな場所に作ったのかと疑問がわいた。

一人でのお出掛けは、自分一人で行動しなくてはいけない。誰かに、頼ることも出来ない。なので慎重になる。また、安全に行動することや誰かに行き先を伝えるなどは絶対必要なこと。一人でお出掛けしたことで、いろんな出会いや本当の中国の生活を知ることができた。